

研究部会報告



●ビジネスゲーム●

●第9回

12月17日(土) 経営計画実施に関してのユニークな方式である事前管理こまごまに関して、山本氏(松下電池)にご発表いただいた。これは、同社で実行されている方式であり、3ヵ月単位で詳細計画を作成し、予定と実績の差をつめて、よりよい計画を求めていくものである。

なお、各回の参加人数は15~20名です。

●第10回

日時：3月19日(土) 13:30~17:00

場所：大阪中央電気倶楽部

テーマ：「OAの普及状況について」

講師：高橋敏朗(大阪市大商学部)

内容：関西地区を中心としたOAの調査にもとづき、OAの現状についての分析的な結果を示された。さらに現状の問題点の分析より出発して、OAを導入した企業組織のあるべき姿について論じられた。

参加人数：12名

●信頼性・保水性●

●第1回

日時：4月23日(土) 14:00~17:00 場所：東京工業大学経営工学科

テーマ：センサーデータ解析におけるいくつかの問題点について 講師：宮川雅巳(東工大)

寿命試験には中途打ち切りがつきものであるが、一方、フィールドデータでは random censoring されたデータが観測されることが多い。この random censoring model における nonparametric 推定の概要と、parametric と nonparametric の中間的アプローチによるモデル探索的データ解析の問題について説明がなされた。

●第2回

日時：5月28日(土) 14:30~17:00

場所：東京工業大学経営工学科

テーマ：通信網品質の設計評価について

—電話網の安定品質—

講師：高橋成美(電電公社武蔵野通研)

信頼性の高い電話網を構築するための基本的考え方および各種信頼度対策の紹介および電話に対する国民のイメージの紹介が行なわれた。また、新システムであるSPC交換機の信頼度設計等についても紹介がなされた。

●数理計画法(関西)●

●第1回

日時：4月22日(金) 14:00~17:00

場所：京大会館 出席者：21名

テーマ：(1)「メモリーの階層性とアルゴリズム」津田孝夫(京都大学) (2)「確率スケジューリング問題」木瀬洋(京都工繊大学)

(1)では、実際の計算機上での計算量を論ずる場合に、メモリーの階層性を考慮することが重要であること、およびその理論的なアプローチ方法が示された。(2)では、処理時間が確率分布となるような、ある種のスケジューリングに関する Bault のアルゴリズムが誤っていること、および類似問題にかんする新アルゴリズム等が示された。

●第2回

日時：5月27日(金)14:00~17:00, 場所：神戸市立勤労会館 テーマ：(1)「非線形計画問題のための代理制約法」仲川勇二(高松工専) (2)「2次割当問題とコンピュータ援用レイアウト設計」安田一彦(神戸大学)

(1)では、もとの数理計画問題を解くかわりにその代理双対問題を解く方法および具体例が示され、通常の大対問題との関連が論じられた。

(2)では、種々のレイアウト計画問題、およびその解法の枠組み、およびサーベイ結果が示され、工場に工作機械をレイアウトするような場合のための1つの方法が提案された。

●意思決定のための会計情報●

●第1回

日時：4月23日(土)

場所：慶応義塾大学ビジネススクール

出席者：11名

議題：「研究部会活動の進め方について」

主として下記の3テーマを中心に研究を進めることになった。

(1)意思決定のための経済分析と伝統的な会計情報とのギャップを埋めるためのキーポイントの整理

(2)パーソナル・コンピュータを活用したデジジョン・サポート・システムの設計

(3)経営の戦略計画をサポートする会計システムの検討
第2回

日時：5月28日(土) 14:00~17:00

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：13名

内容：(1)改善活動の経済性分析（東京理科大学：山口俊和）

(2)事業部の資本予算管理と減価償却政策（慶応義塾大学：伏見多美雄）

(3)投資業績の事後評価に関する文献調査（慶応義塾大学：伊藤和憲）

●現場のOR教育●

●第3回

日時：5月20日 場所：中部電力本店会議室

委員の所属する企業における、OR教育の実態の紹介があり、今後の方向について話し合った。

●未来分析●

●第5回

日時：5月21日(土) 14:00~17:00

場所：東京都勤労福祉会館 参会者：20名

議題：行政機能の民営化について

自治総合センター 加藤富子

行政機能は独特の権力構造をもっているために秘密の部分が多く、行政作用にともなうデータ(特にコスト)はほとんど表面に出ないのが通例であるが、これをいかにして一般に周知させうるかが第1の問題であり、さらに

このデータを基準にしてどの分野が民営化したほうが有利であるかを較量することが第2の問題となる。

この2つの問題に関し、具体例をもって解明したものであり、今後の行政改革のあり方に示唆を与えるものがあった。

●待ち行列システム●

●第2回

日時：5月21日(土) 14:30~17:30

場所：東京工業大学(情報科学科会議室)

テーマと講師：●QS2-1 「待ち行列システム」研究部会

今後のスケジュール(案) (幹事)

●QS2-2 海上交通における待ち行列理論の応用

奥山育英(港湾研)

QS2-2-1 片道通航水路の交通容量に関する研究

QS2-2-2 大規模埋立工事における土砂等資材運搬船の運搬に関する研究

●QS2-3 多段のcyclic Q. system 森村英典(東工大)